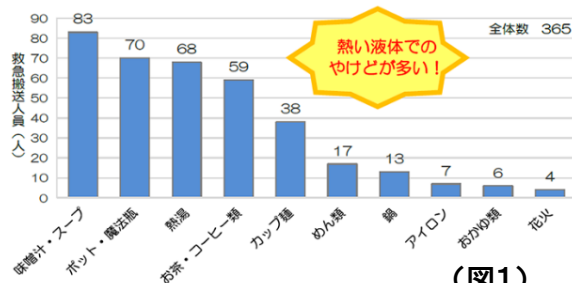


～乳幼児のヤケドの原因と対応について～

＜ヤケドの年齢と原因＞

H30年度の東京消防庁の報告によると、年間約400人がヤケドにより緊急搬送されています。そのうち0歳児と1歳児の乳児が全体の2/3を占めています。

原因としては、味噌汁、スープ、カップ麺などの**熱い液体によるものがほとんど**で、それ以外には炊飯器の蒸気、アイロン、花火などがありました。(図1)



(図1)

＜ヤケドをしたときの家庭での応急処置＞

①まず、ヤケドをした部位を流水で10分程度冷やします。

②次に、ワセリンやオリーブオイルを塗ったラップを患部にあてましょう。その上からタオルで巻いてあげてください。ラップで**患部を乾燥させない**ことにより、痛みが軽減します。



*軽いヤケドでは、①②で様子を見て、翌日病院を受診して下さい。

*ヤケドが広範囲に及ぶ場合やすぐ水疱ができた場合は、直ちに病院を受診して下さい。

*衣服の上から熱湯をあびた時は、服をぬがさずそのまま病院を受診して下さい。

ヤケドもキズと同様に湿潤療法**(消毒しない/乾かさない/ガーゼを当てない)**が基本です。湿潤療法の被覆材であるハイドロコロイド絆創膏(図2)がヤケドでも使用できますので、利用してみてください。

(「キズ・ヤケドは消毒してはいけない」夏井睦 著より)



(ネットで購入可)

(図2)

～親子で遊ぼう～ ⑥ ギッタンバッコ

親子で向かい合って座り、「ギッタンバッコ」のかけ声に合わせ、上体をゆっくり倒したり、起こしたりします。前後への大きな動きが楽しい遊び。笑顔で目を合わせながらするのがポイントです。

子どものおなかに口を当て、おならのような音を出すと、子どもは大喜び！！

*赤ちゃんの腕を強く引っ張ると、腕が抜けることがありますので、注意してくださいね。



9月の感染症情報

9月に入り朝晩が涼しくなるようになり鼻風邪が目立つようになりました。季節性の感染症としてはヘルパンギーナが一部の園で発生がありましたが、それ以外に流行している感染症はありません。

9月のご利用状況

9月の利用延べ人数は34名、一日平均利用人数は1.7人でした。年齢別では、1歳児が16人(47%)で最も多く、次いで2歳児の9名(26%)、0歳児の4名(12%)の順でした。疾患別では急性上気道炎が半数以上を占め、その他アデノウイルス感染症、感染性胃腸炎などがありました。10月に入り寒暖差が目立つようになりました。運動会の季節です。お子さんの体調管理には気をつけてあげてください。